

## 特集にあたって

生田目 崇 (中央大学)

本特集は、経営科学系研究部会連合協議会主催「令和5年度データ解析コンペティション」(以下、「本コンペティション」)の研究成果を元にした論文を募集し、査読して採択された論文によるものです。4編の論文が投稿され、うち3編が採録されました。なお、それぞれの論文について2名に査読者に査読をお願いしました。短い期間に適切な査読をしていただいた査読者の皆様に感謝申し上げます。

本コンペティションでは日本経済新聞社様のご協力を得て、日経 POS 情報のうち、アルコールを含むドリンクカテゴリの商品別日次データを提供いただきました。日経 POS データは、1985年から小売店の協力のもと1,500店舗、のべ10億人の購買を有する、日本でも有数の単品別の購買履歴データです。本コンペティションのために過去10年のデータを提供いただきましたが、過去最長期間のデータ提供となりました。データ項目の概要は以下のとおりです。

- 地域 (今回は全国・首都圏・近畿の3区分での集計データを提供いただきました)、店舗業態、業態の店舗数と来店数
- 年月日、営業日数
- 商品名・コード、カテゴリ分類、登録日と最新売上日
- 千人当たり個数・金額・容量
- 販売金額 (特売金額についても提供)、最低価格、最高価格、平均価格
- カバー率 (売上のある店舗数 ÷ 対象店舗数)

さらに細かくさまざまな集計されていましたが、紙面の都合で省略します。

読者の皆さんもご存じかと思いますが、飲料カテゴリは大変激しい競争下にあり、一年中新製品が投入されながら、数多くの製品のプロダクトライフサイクルが終焉を迎えます。また、同じ商品でもパッケージのリニューアルがされるなど、常に市場のニーズを考慮しながらの商品販売が行われている点は、メーカー、小

売店とも共通です。特に今回は、10年間という非常に長い期間のデータを提供いただいたこともあり、長期間の変化に着目した論文が採択されています。機械学習やマーケティング・サイエンスのモデリングなどさまざまな手法が用いられている点も注目してご一読いただきたいと思います。

POS データの登場から数十年が経過していますが、POS データは元祖ビッグデータともいえるものであり、各種のマーケティング分析にとって、今やなくてはならないデータです。本来はビジネス向けである貴重な日経 POS データを提供いただいた日本経済新聞社様には重ねて感謝申し上げます。また、データ分析環境については株式会社 NTT データ数理システム様に分析ツール Alkano を貸与いただきました。毎回快く貸与いただくことに感謝申し上げます。本コンペティションは81チーム、延べ520名の参加を得ました。本協議会を構成する各学会の研究部会の主査・幹事の先生方には毎年のことながら、成果発表の場を設定していただいております。関連するすべての方々へ感謝の意を表します。

平成6年(1994年)に始まりましたこのコンペティションも本コンペティション(2023年)をもって30年を迎えました。途中一度も中断することもなく(実は何度か開催が危ぶまれたこともありましたが)続けてこられました。これも数多くのご協力いただいている方々の存在あってのことです。詳細に数えてはおりませんが、コンペティションの成果を元に、これまでに数百の学術論文やプロシーディング、学会発表などが行われてきました。積極的な研究を進めてこられた参加者の皆様あってのこの数です。

31年目の令和6年度はリサーチ・アンド・イノベーション社様より、レシート読み取りアプリで収集された購買データを提供いただき、コンペティションを開催しています。ご興味ある方はぜひ成果発表をお聞きいただければと思います。